

令和2年度進学者及び編入学者

授 業 科 目 表

授 業 要 旨

都 市 ・ 建 築 学 専 攻

Department of Architecture and Building Science

区分	授業科目	開講時期	使用言語	単 位			担当教員	備考
				必修	選択必修	選択		
学 際 基 盤 科 目	都市・建築デザイン学特論	3年に 1回	JE		2		教授 石田 壽一 都市建築 教授 五十嵐太郎 都市建築 教授 小野田泰明 都市建築 教授 姥浦 道生 都市建築 教授 村尾 修 災害研 教授 岩田 司 災害研 准教授 本江 正茂 都市建築 准教授 飛ヶ谷潤一郎 都市建築 准教授 野村 俊一 都市建築 准教授 佃 悠 都市建築 教授 持田 灯 都市建築 教授 前田 匡樹 都市建築 教授 木村 祥裕 都市建築 教授 五十子幸樹 災害研 教授 佐藤 健 災害研 准教授 西脇 智哉 都市建築 准教授 後藤 伴延 都市建築 准教授 小林 光 都市建築 准教授 高橋 典之 都市建築 准教授 長澤 夏子 都市建築 准教授 大野 晋 災害研 准教授 柴山 明寛 災害研 教授 持田 灯 都市建築 1～10 全教員	左記の学際基盤科目および関連科目のうちから、4単位以上を選択履修すること。 ただし、上記4単位に含めることができるインターンシップ研修B及び関連科目は2単位までとする。
	都市・建築計画学特論A	3年に 1回	JE		2			
	都市・建築計画学特論B	3年に 1回	JE		2			
	サステナブル空間構成学特論	3年に 1回	JE		2			
	建築構造工学特論	3年に 1回	JE		2			
	災害制御学特論	3年に 1回	JE		2			
	建築環境デザインのためのCFDモデリング CFD Modeling for Building Environment Design	3年に 1回	E		2			
	インターンシップ研修B					1～10		
	都市・建築学博士特別講義				2			
	関連科目	本研究科委員会において関連科目として認めたもの。						
専門科目	都市・建築学特別研修			4			全教員	
	都市・建築学博士研修			8			全教員	

- 上記科目の単位数を合わせて16単位以上を修得すること。
- 担当教員名は予定者を含んでおり、変更することがある。
- 各授業科目の開講年度等は授業時間割等で確認すること。
- 『使用言語』欄のアルファベット記号について
J：日本語開講科目 (Lectures given in Japanese)
E：英語開講科目 (Lectures given in English)
JE：準英語開講科目 (Lectures prepared for both Japanese and foreign)
- 教員所属組織名については、1ページの別表を参照のこと。

<p>都市・建築デザイン学特論【TABABD701】 2単位 Advanced Course on Urban & Architectural Design</p> <p>選・必 教授 石田 壽一 教授 五十嵐太郎 教授 小野田泰明 教授 村尾 修 教授 岩田 司 准教授 本江 正茂 准教授 飛ヶ谷潤一郎 准教授 野村 俊一 准教授 佃 悠</p> <p>都市・建築デザイン学が対象とする研究課題の中でも優れて今日の先端的な主題を取り上げ、現時点での可能な解と現前の都市及び建築デザイン学的課題及び将来展望について講義する。</p>	<p>都市・建築計画学特論 A【TABABP701】 2単位 Advanced Course on Urban & Architectural Planning A</p> <p>選・必 教授 石田 壽一 教授 五十嵐太郎 教授 小野田泰明 教授 村尾 修 教授 岩田 司 准教授 本江 正茂 准教授 飛ヶ谷潤一郎 准教授 姥浦 道生 准教授 野村 俊一 准教授 佃 悠</p> <p>本講義では、都市・建築計画学グループが扱う最先端の研究課題のうち、都市スケールの課題に焦点を当て、現段階における到達点と直面する技術的課題、開拓されるべき関連学問分野、及び将来の展望について講義する。</p>
<p>都市・建築計画学特論 B【TABABP702】 2単位 Advanced Course on Urban & Architectural Planning B</p> <p>選・必 教授 石田 壽一 教授 五十嵐太郎 教授 小野田泰明 教授 姥浦 道生 教授 村尾 修 教授 岩田 司 准教授 本江 正茂 准教授 飛ヶ谷潤一郎 准教授 野村 俊一 准教授 佃 悠</p> <p>本講義では、都市・建築計画学グループが扱う最先端の研究課題のうち、建築や人間のスケールの課題に焦点を当て、現段階における到達点と直面する社会的課題、開拓されるべき関連学問分野、及び将来の展望について講義する。</p>	<p>サステナブル空間構成学特論【TABABE701】 2単位 Advanced Course on Sustainable Building Engineering</p> <p>選・必 教授 持田 灯 教授 前田 匡樹 教授 木村 祥裕 教授 五十子幸樹 教授 佐藤 健 准教授 西脇 智哉 准教授 後藤 伴延 准教授 小林 光 准教授 高橋 典之 准教授 長澤 夏子 准教授 大野 晋 准教授 柴山 明寛</p> <p>サステナブル空間構成学グループが扱う最先端の研究課題について、現段階における到達点と直面する技術的問題、開拓されるべき関連学問分野、及び将来の展望について講義する。</p>
<p>建築構造工学特論【TABABS701】 2単位 Advanced Course on Building Engineering</p> <p>選・必 教授 持田 灯 教授 前田 匡樹 教授 木村 祥裕 教授 五十子幸樹 教授 佐藤 健 准教授 西脇 智哉 准教授 後藤 伴延 准教授 小林 光 准教授 高橋 典之 准教授 長澤 夏子 准教授 大野 晋 准教授 柴山 明寛</p> <p>建築構造工学グループが扱う最先端の研究課題について、現段階における到達点と直面する技術的問題、開拓されるべき関連学問分野、及び将来の展望について講義する。</p>	<p>災害制御学特論【TABABS702】 2単位 Advanced Course on Control of Damage Caused by Disaster</p> <p>選・必 教授 持田 灯 教授 前田 匡樹 教授 木村 祥裕 教授 五十子幸樹 教授 佐藤 健 准教授 西脇 智哉 准教授 後藤 伴延 准教授 小林 光 准教授 高橋 典之 准教授 長澤 夏子 准教授 大野 晋 准教授 柴山 明寛</p> <p>地域生活環境の快適性及び災害安全性の評価及び制御技術に関する最先端の研究課題について、現段階における到達点と直面する技術的問題、開拓されるべき関連学問分野、及び将来の展望について講義する。</p>
<p>建築環境デザインのためのCFDモデリング【TABABE702】 2単位 CFD Modeling for Building Environment Design</p> <p>選・必 教授 持田 灯</p> <p>乱流拡散現象は都市空間や建築空間の環境に大きな影響を及ぼすので、良好な環境を実現するためには、これを適切に予測・制御する必要がある。本講義では、代表的な乱流モデルの考え方を解説するとともに、数値流体解析と組み合わせて使用されることの多い放射解析や人体温熱生理モデルの概要を説明する。さらに、数値解析技術を利用して、環境形成メカニズムを分析し、様々な問題を引き起こす主要な要因を抽出し、質の高い環境を実現することを目的として行われている最新の研究事例を紹介する。</p>	<p>インターンシップ研修 B【TABARE901】 1～10単位 Internship Training B</p> <p>選択 全教員</p> <p>多様な実務能力を涵養する目的から、国内、または海外の設計事務所及び設計実務の研修可能な企業において、建築の意匠設計、構造設計、設備設計及び工事監理の実習を行う。本研修を通じて企画、計画、設計、施工、事後研修等の実務およびグループ作業による仕事の進め方を実地に体験し、理解する。研修者は、研修先と指導教員に研修計画書および研修報告書を提出する。研修時間は30時間毎に1単位を認定する。研修時間に応じて単位は対応していく。但し上限は10単位までとする。</p>
<p>都市・建築学博士特別講義【TABARE702】 2単位 Special Lecture for Doctoral Course</p> <p>選・必</p> <p>専門分野及び関連分野における最新の学問研究について、特に学問の創造・発展に関する特別講義である。</p>	<p>都市・建築学特別研修【TABARE703】 4単位 Advanced Seminar on City and Architecture</p> <p>必修 全教員</p> <p>都市・建築デザイン学、都市・建築計画学、サステナブル空間構成学、建築構造工学の各グループに所属し、テーマに基づく国内外の文献紹介、資料収集、ワークショップ、レポート等をもとに討論し、高度な知識を習得する。</p>

<p>都市・建築学博士研修【TABARE704】 8単位 Doctor Thesis Seminar on City and Architecture 必修 全教員</p> <p>都市・建築デザイン学，都市・建築計画学，サステナブル空間構成学，建築構造工学の各グループに所属し，博士論文に関する一定の研究成果をもとに研究発表，討論，国内外の文献紹介などの実験及び演習に参加する。</p>	

